

平成 29 年度(2017 年度)セタシジミ肥満度モニタリング

井戸本純一・草野充

1. 目的

セタシジミの産卵前の肥満度は近年大きく変動しており、北湖一円の漁場で値に差はあるものの、その増減傾向はほぼ一致している。全湖的な現象と考えられるこの変動をより詳細にとらえるため、2010 年以降、主要漁場の一つで水深の幅が広い松原漁場において肥満度のモニタリング調査を実施している。

2. 方法

彦根市松原町地先のシジミ漁場に等深線と平行に 4 本の調査定線を設けた(図 1)。ほぼ毎月、調査用定量桁網(採取幅 8cm、袋網の目開き 10mm)を用いて定線上で採集調査を実施し、成貝について漁場別調査と同じ方法で肥満度を測定した。

3. 結果

各定線における肥満度の推移を図 2 に示した。2017 年の肥満度は、例年は上昇する 1 月～2 月にも前年秋から引き続いて低下傾向が続き、4 月には水深 5m 以浅でやや上昇したものの、平均では 2016 年の 3.3% に対して 1.9% と低かった。産卵期にかけての最高値は、4.5 m と 5m がそれぞれ 6 月の 2.6% と 2.4%、10

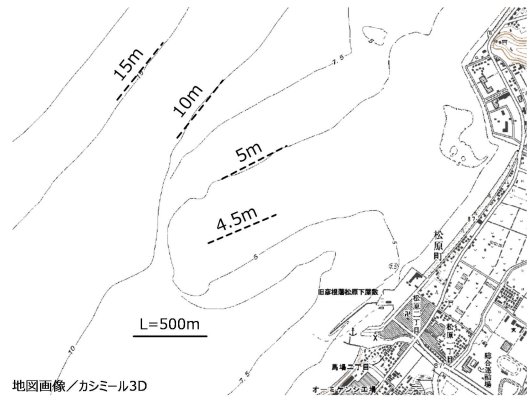


図 1 松原漁場の水深別定線(破線)。

m と 15m がそれぞれ 4 月と 5 月の 1.7% にとどまり、その後 10 月(平均 1.5%)にかけて低下した。11 月には平均 2.2%、12 月には 2.7% に肥満度が急上昇したが、翌 1 月から 3 月にかけては 2.8%～3.2% と横ばい状態となった。

現在の主要なセタシジミ漁場は水深 10m 前後の範囲にあり、漁場別の調査でも産卵前の肥満度が過去最低であったことから、2017 年の再生産は極めて低調であったと考えられ、今後の資源への影響が懸念される。

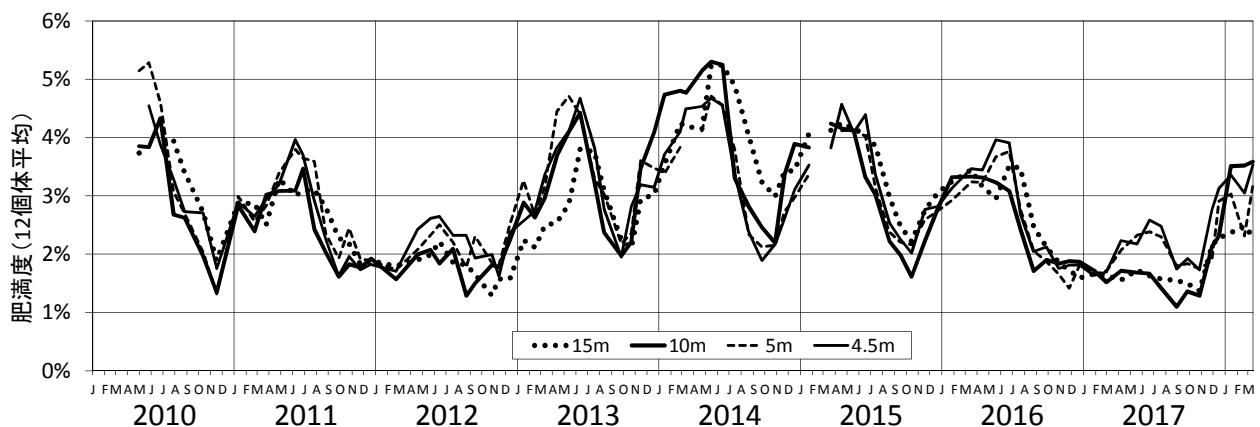


図 2 松原漁場の水深別定線におけるセタシジミの肥満度の推移。

肥満度(%)=貝の中身(軟体部)の乾燥重量/貝全体の重量(貝殻および内部の水を含む)×100
本報告は滋賀県資源管理協議会からの調査委託事業の成果の一部である。